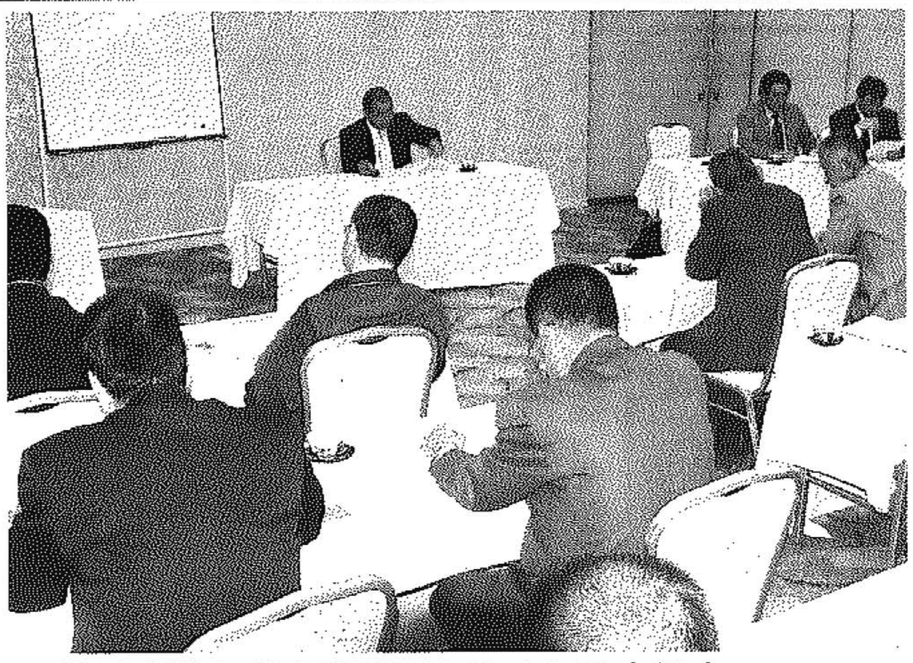
鹿児島市塗装業協組、設立総会

初代理事長に松岡氏

塗装業界発展に寄与

塗装工事業を専門とし、建設業法に基づく鹿児島市内の許可業者ら37社が10日、新たな協同組合を設立。鹿児島市のパレスイン鹿児島で総会を開き、名称を鹿児島市塗装業協同組合とし、設立発起人代表の松岡直光氏（㈱松美研）が初代理事長に就任した。

設立発起人は、松岡氏のほかに、市坪孝志氏（㈱市坪建装）、上原充久氏（㈱上原塗装）、濵崎博文（有）濵崎工業）の4氏。ゼネコン同士の受注競争激化の中で、専門業者の取引条件や労務待遇の維持、改善などを目標に組合運営に当たる方針だ。



共同購買など事業計画を決めた設立総会＝鹿児島市のパレスイン鹿児島で

松岡直光初代理事長

議事では、組合員の取引条件について団体協約を締結する事業などを柱に事業計画などを決めた。また、収支予算案や組合定款などを承認。選挙で役員人事を決めた。

事業計画は、①共同購買②共同受注・受注の斡旋③共同検査④団体協約の締結⑤教育・情報の提供⑥組合員の福利厚生―などを掲げている。

松岡理事長は「熟練技能者の定年と経年難による若手育成がおろそかになり、技能者不足が懸念される」と述べ、さらに「塗装業界発展に寄与していきたい」と抱負を語った。

役員は次の通り。

理事長＝松岡直光▽副理事長＝市坪孝志▽理事＝上原充久　新福輝男（新福塗装㈲）大平集一（㈲大平塗装店）有村衛（有村建装㈲）▽専務理事＝濵崎博文▽監事＝森口清水（㈲森口塗装）坂口太（㈲坂口建築板塗工業）

JIA鹿児島会総会

新代表幹事に蓑田氏

JIA（日本建築家協会）九州支部鹿児島会（上鶴眞一代表幹事）は9日、鹿児島市のブルーウェーブイン鹿児島で2008年度総会を開き、新年度事業計画などを決めた。また、任期満了に伴い、蓑田満康氏を新たに代表幹事とする人事案も承認した。

議事では、オープンデスク（大学生・工業高校生を対象にした事務所実習）や鹿児島建築展の開催などを柱とする新年度事業計画を決めた。また、決算書類や収支予算案などを承認した。

蓑田満康新代表幹事

鹿児島建築展の開催などを柱とする事業計画を決めた総会＝鹿児島市のブルーウェーブイン鹿児島で

蓑田新代表幹事（みの山高士▽相談役＝古川稔　上鶴眞一代表幹事＝蓑田満康▽代表副幹事＝中俣知大　下山道男▽幹事＝石川幸男　小原正信　藤崎松一郎　吉永詠子▽監査＝中だ設計）は「建築展の開催などを通して広く活動を知ってもらうとともに、会員の皆さんとレベルアップできるような運営を目指したい」と抱負を語った。

新役員は次の通り。

県産業廃棄物協会鹿児島支部総会

下田支部長再選　不法投棄の監視を

県産業廃棄物協会鹿児島支部（下田勝幸支部長、119社）は10日、鹿児島市の城山観光ホテルで不法投棄のパトロールなどを柱とする新年度事業計画を決めるとともに、役員改選では下田支部長（㈱鹿児島開発工業）以下、執行部全員の留任を決めた。

冒頭、下田支部長は「この美しい鹿児島を未来の子どもたちに残すため、われわれは適正処理を推進し、不法投棄を監視していかねばならない。経済状況は厳しさを増しているが、今こそ支部会員が結束し乗り切っていこう」と挨拶。

議事では、議長に末吉晴海副支部長（末吉建設㈱）を選出。19年度事業計画・収支予算案を原案通り可決承認した。

新年度事業計画は、①産業廃棄物の適正処理に関する研修会、講習会等の開催②不法投棄・適正処理および安全管理パトロールの実施③行政機関との意見交換会の実施④協会および支部への加入促進⑤マニフェストの普及促進―など。

適正処理に関する研修会開催も決めた総会＝鹿児島市の城山観光ホテルで

新役員は次の通り。

支部長＝下田勝幸▽副支部長＝末吉晴海　三谷純夫（㈱三純建設）永田雄一（永田重機土木㈱）▽理事＝野元一喜（㈱ビルメン鹿児島）斜木拓（斜木建設㈱）池平陽一（㈱トレンディ開発運輸）新留次雄（㈱ヤクヤクリサイクル）下田勝利（㈱勝利商會）▽監事＝上村清俊（清輝建設㈱）吉丸安治（㈱エコフロント西

高田電気が奉仕作業

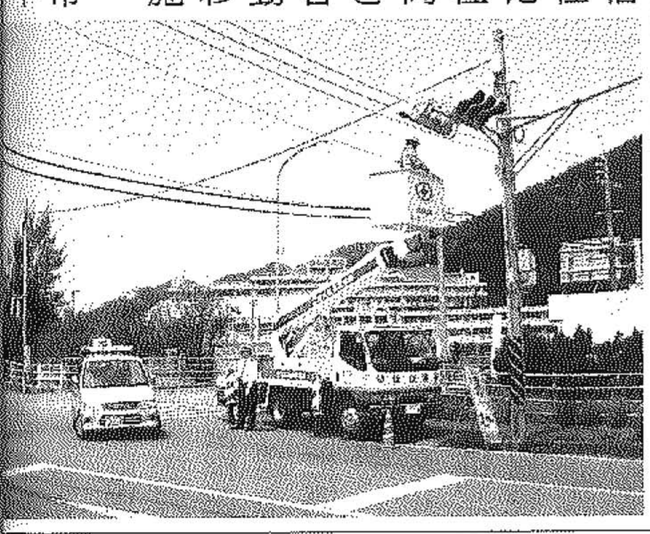
2日間にわたり信号機など清掃

高田電気㈱（高田幸三社長、奄美市）は4、5日の2日間、奄美市名瀬と瀬戸内町で信号機清掃の奉仕作業を実施した＝写真＝。同社は毎年年末に同作業を行ってきたが、今回は春の交通安全運動と入学式に合わせる形での実施となった。

4日は奄美市名瀬の朝仁～平浦上方面で13カ所の信号機清掃を実施。高所作業車を使い、排気ガスやほこりなどで汚れたレンズや枠をきれいにふき取っていった。

5日は瀬戸内町古仁屋市街地と阿木名地区11カ所で同様の作業を行った。また、この日は高田社長が会長を務める瀬戸内地区交通安全管理協議会も参加し、市街地から網野子峠までの交通安全看板やロードミラー、交通標識を一つ一つ丁寧に磨いていった。

高田社長は「地域貢献の一環として、日ごろからお世話になっている住民への恩返しということで毎年行っている。清掃活動が少しでも交通安全の役に立てればありがた



川路建設が清掃ボランティア

桜並木がすっきり

㈱川路建設（川路豊社長、指宿市）は9日、指宿市の池田湖エプロンハウス周辺の清掃作業をボランティアで実施した。

これは、会社の福利厚生の一環として行っているファミリー花見大会の実施にあたり、桜並木のある同エプロンハウス敷地内の散策路周辺（約300㎡）の清掃作業を、ボランティアで実施することになったもの。

作業には、同社の社員をはじめその家族らを含む約40人が参加。カマや剪定バサミなどを手にした参加者らは、周辺に生い茂る雑草を手際よく刈り取り、ビニール袋に詰め込む姿があちこちで見受けられた。

また、作業の後には現地で花見大会も開催され、ビンゴゲームなどのレクリエーションで大いに盛り上がり＝写真＝、春風が吹くさわやかな日に参加者らは楽しいひとときを過ごした。

岩下工務店が地域に貢献

生活道路の景観保つ

生活道路の景観を保とう―と、西之表市の㈲岩下工務店（若林昭雄社長）がこのほど、同市の市道横山線などの清掃ボランティア活動を実施した＝写真＝。今回もホウキやスコップを使った清掃作業のほか、空き缶やペットボトルなどのごみ収集も同時に行った。

同日は、午前8時に現地に集合。若林社長が作業上の注意事項や手順などの説明を行った後、早速作業に取り掛かった。社員らは道路わきの土砂などをスコップで除去しながら幅員の拡幅に努めたり、投棄されたごみを一つずつ丁寧に拾い集めた。作業は午前中いっぱい続けられ、終了後は見違えるようにきれいになった。

若林社長は「年々ごみの量は減ってはいるが、社員も地域住民への感謝の気持ちを込め、積極的に参加してくれる。今後も、地元に信頼される企業を目指しながらボランティア活動などの社会貢献活動に努めたい」